

家族だけでは難しいことは、地域で取り組む。それが、安心できる暮らしへの第一歩です。

地域で見守り、支え合う、 安心して優しい社会をめざして



【インタビュー】
田面木地区社会福祉協議会会長
前田 洋子 さん

からも大変好評です。世代を超えて住民同士が交流を重ねることで、何か困った時も気軽に相談し合える関係性が生まれています。

一 人暮らしの高齢者などを地域住民が見守り、お互い支え合いながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指し、県は住民による見守り活動を行う市町村や社会福祉協議会に経費の一部を補助しています。私たち田面木地区社会福祉協議会も県の支援を受け、町内ごとに「ほのぼの交流協力員」という見守りボランティアを委嘱し、定期的に高齢者宅の訪問活動・安否確認を行っています。

また、年に3〜4回、町内ごとに「ほっとサロン」を開催し、閉じこもりがちな高齢者の交流の場を設けています。各町会では毎回、健康体操や落語、音楽会、南部の昔話など趣向を凝らした楽しい企画を練り、お昼にはみんなでおしゃべりしながら会食を楽しみます。ほのぼのの交流協力員も心を込めた手作りの料理を提供しており、参加者の皆さん

認知症になっても安心して暮らせるまちに

地元の「公益財団法人こころすこやか財団」と一緒に、子ども

たちに認知症に対する理解を深めてもらう活動も行っています。田面木小学校の4年生を対象に、財団の方たちが楽しい寸劇などを採り入れた「認知症サポーター養成講座」を開き、子どもたちも認知症の方への接し方を学んでいました。

また、「認知症になっても安心して暮らせるまちにしたい」という思いから、田面木地区社会福祉協議会、こころすこやか財団、田面木地区連合町内会、学校が連携し、年に一度、認知症徘徊者への声掛け模擬訓練を開催しています。

地域が人を優しく見守っていく社会を目指し、今後も活動に取り組んでいきたいと思えます。

活動紹介

地域ぐるみで

認知症の方を支援しています

認知症徘徊模擬訓練 | 田面木まごころネットワーク

八戸市の田面木地区では、

認知症で迷った方をいち早く発見し、どのように事故を未然に防ぎ、安全なところに保護するべきか、認知症に関する「基礎知識講義」や「模擬訓練」など、地域の大人と子どもと一緒に学べる場を作っています。実際に、参加した方々にお話を聞いてみました。



身近に認知症の方がいたので対応方法などの知識を身に付けたかった。
(参加者)

模擬訓練を通して幅広い年代の方と触れ合えることが嬉しい。
(参加者)

認知症の方には、正面からやさしく笑顔で接することを学んだ。
(参加者)

徘徊している人に対してすんなり対処できるようになった。
(参加者)

徘徊している認知症の方に気づいてくれる人が増えた。
(関係者)

自分も高齢者だからこそ少しでも地域の人の役に立ちたい。
(参加者)

訓練に参加していない地域の方にも、街中で模擬訓練をすることが活動のPRになる。
(関係者)

認知症サポーターを養成中

～青森県には、すでに4万人を超えるサポーターがいます～



◎認知症サポーターとは？

認知症サポーターとは、特別な何かをする人ではなく、認知症の人やその家族を「応援」する人のこと。認知症について正しく理解し、職場やご近所で偏見を持たず、認知症の人やその家族を温かい目で見守り、必要な時に手を差し伸べることが期待されています。

◎認知症サポーターになるには？

各市町村で実施している「認知症サポーター養成講座」(約1時間半)を受講すれば、どなたでもなることができます。企業や団体での受講も可能です。詳しくは、お住いの市町村の認知症担当窓口にお問い合わせください。

認知症サポーター「オレンジリング」

認知症の人を応援しますという意味を示す手首につける目印。養成講座を受講した方の証です。



まちなか高齢者サロン つどいの場「あったかふれあいサロン」開設!

青森県では、高齢となってもいろいろな世代の方と交流し、生きがいを持って過ごすことができるよう、青森駅前にサロンを開設しました。

サロンでは、健康づくり、娯楽・趣味、生きがい・社会参加、多世代交流などのいろいろな活動を行います。お買物の際などにお気軽にお立ち寄りください。

- 場所: 「アウガ」2階(青森市新町)
- 開所時間: 午前10時～午後6時 年中無休(年末年始を除く)
- 問合せ先: 高齢福祉保険課 ☎017-734-9298